

# 令和4年度

## 幼稚園教員資格認定試験

### 教科及び教職に関する科目(Ⅱ)

#### 注意事項

受験者は、下記の注意事項に従うこと。それ以外の注意事項は全て試験監督者の指示によること。

1. 試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 氏名、受験番号を「令和4年度 幼稚園教員資格認定試験 解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
3. 受験番号をマークしてください。
4. 「解答カード」の中で特に受験番号の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
5. 解答は、全て「解答カード」の解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
6. マークは必ず黒鉛筆(HB)を使用して、枠内にきちんと記入してください。  
訂正する時は、プラスチック製消しゴムで完全に消してください。また、「解答カード」を曲げたり折ったりしてはいけません。  
「解答カード」が汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に「解答カード」の交換を申し出てください。
7. この試験の解答時間は、「始め。」の合図があってから50分です。
8. 試験が終わるまで退室できません。 [マーク例]
9. 試験監督者の「やめ。」の合図があったら、直ちにやめてください。 (よい例) ●
10. 下書きには問題冊子の余白を使用してください。
11. 試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。 (悪い例) ✓ ⊗ ⊕ ⊙

問 1 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 1 幼稚園教育の基本」の一部である。文中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児の ① な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な ② であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第 2 章に示すねらいが ③ に達成されるようにすること。

	①	②	③
ア	自発的	学習	総合的
イ	創造的	経験	総合的
ウ	創造的	学習	計画的
エ	自発的	経験	計画的

問 2 「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』」に示された「幼稚園教育において育みたい資質・能力」として適切でないものを、次のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- イ 友達と遊ぶ中で、主張したり、我慢したり、協力したり、頑張ったりする「思いやり、協同性、忍耐力等」
- ウ 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- エ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

問 3 次の文は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 3 教育課程の役割と編成等 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項」の一部である。文中の  ~  に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の  の育成につながることに配慮し、 にふさわしい生活を通して、 な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

	①	②	③
ア	学力	幼児期	論理的
イ	生活や学習の基盤	児童期	論理的
ウ	生活や学習の基盤	幼児期	創造的
エ	学力	児童期	創造的

問 4 次の①～④について、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 1 章 総説 第 4 節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 1 指導計画の考え方」に示された内容として、正しいものを○、正しくないものを×としたとき、組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 幼児が主体的に環境と関わることを通して自らの発達に必要な経験を積み重ねるためには、計画性ある幼稚園生活よりも、幼児の自由な生活を優先させなければならない。
- ② 幼稚園生活を通して、個々の幼児が学校教育法における幼稚園教育の目標を達成していくためには、まず、教師が、あらかじめ幼児の発達に必要な経験を見通し、各時期の発達の特性を踏まえつつ、教育課程に沿った指導計画を立てて継続的な指導を行うことが必要である。
- ③ 指導計画は一つの仮説であって、実際に展開される生活に応じて常に改善されるものであるから、そのような実践の積み重ねの中で、教育課程も改善されていく必要がある。
- ④ 指導計画を作成する際には、一般に一人一人の発達の実情を踏まえながらも、その共通する部分や全体的な様相を手掛かりにして作成されることが多い。このことを踏まえ、具体的な指導においては、一人一人の実情より全体に合わせていくことが重要である。

	①	②	③	④
ア	×	○	×	○
イ	○	×	○	×
ウ	○	○	×	×
エ	×	○	○	×

問 5 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 1 章 総則 第 6 幼稚園運営上の留意事項」の一部である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもつものであることに留意し、家庭との連携を十分に図るなど、幼稚園における生活が家庭や地域社会と ① を保ちつつ展開されるようにするものとする。その際、地域の自然、高齢者や異年齢の子供などを含む人材、行事や公共施設などの地域の資源を積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるように工夫するものとする。また、家庭との連携に当たっては、② の機会を設けたり、保護者と幼児との活動の機会を設けたりなどすることを通じて、保護者の③ に関する理解が深まるよう配慮するものとする。

	①	②	③
ア	個別性	保護者との情報交換	子育て
イ	連続性	保護者との情報交換	幼児期の教育
ウ	個別性	保護者への指導	幼児期の教育
エ	連続性	保護者への指導	子育て

問 6 次の①~④について、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 環境 2 内容」に示された内容として、正しいものを○、正しくないものを×としたとき、組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。
- ② 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。
- ③ 日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。
- ④ 自分でできることは自分でする。

	①	②	③	④
ア	○	○	×	×
イ	×	○	×	○
ウ	○	×	○	×
エ	×	○	○	×

問 7 次の文章は、「幼稚園教育要領」(平成 29 年文部科学省告示第 62 号)「第 2 章 ねらい及び内容 健康 3 内容の取扱い」の一部である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて ① を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、自分の体を ② にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、 ③ を経験する中で、体の動きを調整するようにすること。

- |   | ①  | ②  | ③        |
|---|----|----|----------|
| ア | 道具 | 大切 | 身体を動かす遊び |
| イ | 全身 | 大切 | 多様な動き    |
| ウ | 道具 | 丈夫 | 多様な動き    |
| エ | 全身 | 丈夫 | 身体を動かす遊び |

問 8 次の文章は、『幼稚園教育要領解説』(平成 30 年 3 月文部科学省)「第 3 章 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項 1 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動」の一部である。文章中の ① ~ ③ に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア~エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

教育課程に係る教育時間外の教育活動は、通常の前後や長期休業期間中などに、① に応じて、幼稚園が、当該幼稚園の園児のうち希望者を対象に行う教育活動である。この活動に当たって、まず配慮しなければならないのは、② についてであり、これらが確保されるような環境をつくる必要がある。また、家庭での過ごし方などにより幼児一人一人の③ が異なることに十分配慮して、心身の負担が少なく、無理なく過ごせるように、1日の流れや環境を工夫することが大切である。

- |   | ①            | ②          | ③            |
|---|--------------|------------|--------------|
| ア | 地域の実態や保護者の要請 | 幼児と保護者の気持ち | 発達や性格        |
| イ | 幼稚園の実態       | 幼児と保護者の気持ち | 生活のリズムや生活の仕方 |
| ウ | 地域の実態や保護者の要請 | 幼児の健康と安全   | 生活のリズムや生活の仕方 |
| エ | 幼稚園の実態       | 幼児の健康と安全   | 発達や性格        |

問 9 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(平成 30 年 3 月内閣府・文部科学省・厚生労働省)「第 1 章 総則 第 3 節 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」に示された内容として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 保育教諭等は、入園した年齢により集団生活の経験が異なることに配慮して、0 歳から小学校就学前までの園児の発達や学びの連続性を見通し、園児一人一人の発達の過程に応じ、一貫した教育及び保育を展開していくことが求められる。

イ 幼保連携型認定こども園においては、在園 4 時間で降園する園児もいれば、8 時間<sup>在園</sup>する園児や、保護者の就労その他の家族の生活形態を反映した状況により在園時間が 10 時間を超える園児もいる。園児一人一人の在園時間が異なるが、一日の生活が安定するようにできるだけ園生活のリズムをどの園児も一律に揃<sup>そろ</sup>えることが大切である。

ウ 幼保連携型認定こども園においては、同一年齢の園児からなる学級等による集団活動とともに、異年齢の園児同士が関わる活動を適切に組み合わせることが必要である。

エ 保育教諭等は、長期的な休業期間にも登園する園児、家庭等で過ごす園児それぞれの状況を把握し、個々の実態を丁寧に捉え、家庭や保護者とも必要に応じて連絡を取り合い、園児を中心に据えた連携を図り、援助を行うようにすることが望ましい。

問10 次の①～④について、『幼児理解に基づいた評価』(平成31年3月文部科学省)「第1章 幼児理解に基づいた評価の意義 1. 幼児理解と評価の考え方 (4) 小学校の評価の考え方について」の内容として、正しいものを○、正しくないものを×としたとき、組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ① 小学校における学習評価は、指導と切り離して行うことが重視されている。
- ② 児童の学習状況を学習指導要領に示す目標に照らして総括的に評価する「評定」の欄は、小学校低学年については児童の発達段階の特性や学習の実態等を考慮して、全ての教科について設けていない。
- ③ 小学校における各教科の学習評価は、一定の集団における児童の相対的な位置付けを評価する「相対評価」である。
- ④ 幼稚園と小学校では、評価の方法等は異なるが、評価を行う目的は幼稚園も小学校も同様の考え方に立っている。

	①	②	③	④
ア	×	×	○	○
イ	×	○	○	×
ウ	○	×	○	×
エ	×	○	×	○



問11 『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』(令和3年2月文部科学省)「第1章 指導計画作成に当たっての基本的な考え方 5. 小学校の教育課程との接続と指導計画 (2) 円滑な接続に資する指導計画」に示された、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての記述として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 幼児の活動する姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に照らして、どの程度到達しているのかといった視点から評価することが大切である。
- イ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心としながら、様々な視点から幼稚園と小学校の教師が協議を深めていくことにより、子供の発達を長期的な視点で捉え、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点について理解を深めていくことが大切である。
- ウ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、個別に取り出されて指導されるものではない。
- エ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、資質・能力が育っていく具体的な姿である。

問12 次の文章は、『指導と評価に生かす記録』(令和3年10月文部科学省)「第1章 専門性を高めるための記録の在り方 1. 教師の専門性と記録 (2) 保育の過程と記録」の一部である。文章中の  ～  に当てはまる語句の組合せとして正しいものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

幼児理解は、幼児との応答の中でもたらされ、記録を通して、更に理解が深まり、  につながります。そして、長期の指導計画を背景にして、より具体的な幼児の生活に即した短期の指導計画である週案や日案を作成し、ねらい、内容に沿った環境を構成します。これらを踏まえて、教師は当日の保育を幼児と共に展開し、幼児一人一人に応答しながら柔軟に指導を行い、その中で環境の再構成なども行います。また、保育終了後に、幼児の育ちを振り返りながら、教師自身の援助や環境の構成について記録に基づき  を行います。  は個々に行われるだけでなく、園内研修などで記録を共有しながら  行われることもあります。

- |   | ①       | ②     | ③        |
|---|---------|-------|----------|
| ア | よりよい保育  | 評価    | 保護者と連携して |
| イ | よりよい保育  | ケース会議 | 同僚と協働的に  |
| ウ | 次の保育の構想 | 評価    | 同僚と協働的に  |
| エ | 次の保育の構想 | ケース会議 | 保護者と連携して |

問13 次の文章は、絵画制作の表現技法について説明したものである。文章中の  に当てはまる語句として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

表面にでこぼこのある素材の上に薄い紙をあて、クレヨンや鉛筆などの描画材で紙の上からこすることにより、その表面のでこぼこや形を写し取る技法を  という。見るだけでは分からなかった表面の模様の美しさや面白さを味わうことができる。

- ア ドリッピング
- イ コラージュ
- ウ フロッタージュ
- エ ウォッシング

問14 次の文章は、ある人物について述べたものである。その人物名として最も適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

1918(大正7)年、雑誌『赤い鳥』を創刊し、それまで主流であった教訓的なお伽<sup>とぎばなし</sup>噺や唱歌に代わって、芸術性の高い童話、童謡を広めた。また、『赤い鳥』の投稿欄を通して、ありのままのびのびと表現する綴<sup>つづりかた</sup>方、児童自由詩、児童自由画の普及に努めた。日本の児童文化、児童文学に大きな功績を残した人物である。

- ア 鈴木三重吉
- イ 新美南吉
- ウ 宮沢賢治
- エ 西条八十

問15 次の〔A群〕に示す音符と、〔B群〕に示す音の長さの組合せとして適切なものを、下のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。なお、♪(四分音符)を1拍とする。

〔A群〕

①



②



③

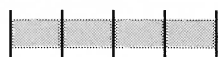


④



〔B群〕

a



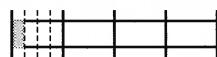
4拍

b



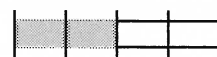
1と2分の1拍

c



4分の1拍

d



2拍

	①	②	③	④
ア	a	b	c	d
イ	b	c	d	a
ウ	d	b	c	a
エ	a	c	d	b